

日時	2024年1月13日(土) 9:30 ~ 11:30 天候： 晴
場所	湿地、2階交流スペース
講座・活動名	湿地モニタリング調査 & 観察園全樹木調査 毎月第2土曜定例
参加者	18名(うち子ども0名) 構成： 講師2名、(環境局0名) NTT西日本関西支店 6名、エコボラ 9名、事務局 1名
講師名	鈴木真裕(大公大)、北川ちえこ* (エコボラの場合氏名に*印をつける)
内容	生き物調査、データ入力、(報告書作成)
使用器材 資材・道具	(持参、借用等も含む) 調査用紙、ボード、バケツ、スコップ、鍬、一輪車、粗朶用の竹、ひも、はさみ
振り返り エコボラ通信に 掲載することが あります。	<ul style="list-style-type: none"> ・粗朶をつくるための、竹の枝がたくさんあり、よかった。枝打ちには鉋が便利であった。 ・できた粗朶を池の周りに固定するため、竹杭 20~30cm ぐらいの長さの棒があれば、粗朶をとめるのに使えるが、粗朶より高くなると危険なので、同じぐらいの高さで止める必要がある。隣同士の粗朶をとめるには、麻縄があればよいと思う。 ・西側のアケビのつるが湿地の内部にまで入り込んでいるので、粗朶の設置前に除去した。あわせて周囲の低木にからんでいたつるも取り除いた。 ・イグサを刈り取ったので、後日、コースターを試作してみる。 <p>全樹木調査の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラミネートラベルの取り付け方法について、既存タッカーの有効性を確認した。幹に取り付ける場合は、園芸用ワイヤーを回して、ワイヤーの上から打ち付けるとよい。 ・硬い幹の場合、打ち付けた針が浮くので、上から軽くたたくハンマーがあればよい。
事務局への 伝達事項 次回案内等	★2月は現状のままとし、3月第1週に水をいれて第2週の様子を見る予定 2月作業は、石組みの枯れ草とりを11時までとし、その後に樹木調査チームとコウホネ池調査チームに分かれて活動する。

スタッフ氏名	活動内容	参加者氏名	活動内容
木山正隆	粗朶づくり	NTTのみなさん	粗朶づくりと設置 6名
竹原秀樹	粗朶づくり	鈴木真裕	動物調査・水田Bの泥移植
渡辺喜代子	植物調査		
西田敏子	植物調査		
北川ちえこ	植物調査		
中谷憲一	昆虫調査		
忍喜博	粗朶づくりと設置		
芝崎美世子	水田B泥移植・アケビのつるとり		
田中伸二	粗朶づくり		
栴元慶子	アケビのつるとり、植物調査		

いずれかに○→(○)裏面に図面、写真等を添付した ()裏面なし ()詳細はファイルで提出

図面・写真等 添付面

日時	2024年1月13日(土)	記録者	榎元慶子
講座・活動名	湿地モニタリング調査		

湿地の状況 240106



No.71 エノキ前 20240106



No.70 エノキ前 20240106

湿地の状況 240113



北方向 20240113



南方向 20240113

粗朶の作成 240113



粗朶づくりの説明



材料の竹



約40本ほどの粗朶が完成



粗朶の設置 240113



固定用杭



湿地の生き物調査 240113



シャジクモ卵胞子が入っていると思われる水田Bの泥を入れた



シャジクモsp
221001湿地完成前
撮影 梶元慶子

湿地の生き物調査 240113



植物調査の様子



昆虫調査の様子

湿地の生き物調査 240113



タチスズメノヒエ



ヘビイチゴ



コメツブツメクサ



ヤハズエンドウ

湿地の生き物調査 240113



ヒメムカシヨモギ



テリミノイヌホオズキ

刈り取られたイグサは後日コースターをつくる予定



湿地内部に張り出していたアケビは取り除いた
周囲の低木からんだものも取り除いた

湿地の生き物調査 240113



シンジュキノカワガ
撮影 梶元慶子



ジョウビタキ♂
撮影 中谷憲一



クビキリギス
撮影 NTT井上文夫